

#### 4 - 事業のあらまし

平成17年度からは「市民からの提案」として、一新された市民の声を聴く制度がありますが、市立図書館では、昨年度1年間で、約260件の要望が寄せられました。

内容はさまざまですが、図書館の増設、インターネット予約の実施、区役所・地区センター等、公共施設での図書館の本の貸出・返却の実施についての要望が多くありました。現在、図書館の増設計画はありませんが、市立図書館が所蔵している375万冊の図書や雑誌・新聞、マイクロ資料等を、広く市民に活用していただけるよう検討し、そのひとつの方策として、今年度から、いよいよ、インターネット貸出予約がはじまります。

【平成17年度 図書館費】 (単位:千円)

中央図書館運営費	828,265
地域図書館運営費	282,470
資料収集事業費	382,121
中央図書館 利用者サービス事業費	39,117
移動図書館事業費	1,990
障害者支援事業費	15,220
市立図書館補修工事費	10,000
インターネット 図書貸出予約事業費	43,945
地区センター等ネット ワーク試行調査事業費	2,767

生活様式が多様化している中で、24時間利用できるインターネット貸出予約は生活リズムにあわせた利用が可能となり、利用者層が拡大することを期待しています。また、ホームページを充実させて、さまざまな情報提供を行っていきます。

インターネット貸出予約の実施に伴い、貸出・返却の拠点となる施設の拡大の要望は、ますます、増えるものと思われます。

それらをふまえて、関係局区との連携を図り、試行調査なども行っていきます。

移動図書館車の巡回場所については、利用状況等を考慮して若干増設しました。

図書館の利用拡大・利便性の向上を目指し、平成17年度も運営していきます。

##### (1) 地区センター・コミュニティハウス(旧青少年図書館)との連携事業

平成17年4月28日から、市民に身近な施設である地区センター(図書コーナーのある67か所)とコミュニティハウス(旧青少年図書館13か所)で所蔵する図書の情報を、市立図書館蔵書検索システム上に公開しました。図書館の蔵書と同じように自宅などのパソコンから、書名、著者名、キーワードなどからの検索が可能になり、検索した図書の目次や内容も表示され、利便性が向上しました。

また、資料選定や運営などの面での連携を強化することによって、地区センター等における図書サービスの向上を図ります。

##### (2) 地区センター等ネットワーク試行調査事業

市民への図書サービスの向上を目的として、今年度は、市民利用施設等での図書館資料の貸出・返却について、図書館と関係局区が共同で試行調査を行います。

試行調査では、旭区・青葉区・戸塚区の、各区内1箇所の市民利用施設等で、図書館資

料の貸出・返却を行い、さまざまな課題を検証していきます。試行調査はインターネット貸出予約の安定稼働を確認してからの実施を予定しています。

また、青葉区内では駅に返却ポストを設置して、検証します。

試行調査は平成18年度まで継続する予定です。

市が尾駅返却ポスト ⇨

平成17年6月14日撮影



### 【実施予定】

区名	場 所	実施内容	実施開始時期
旭	行政サービスコーナー (相鉄：二俣川駅)	貸出・返却	平成17年12月～
青葉	奈良地区センター	貸出・返却	返却：平成17年5月16日～ 貸出：平成17年12月～
	市が尾駅(東急)	返却ポスト	平成17年5月16日～
戸塚	行政サービスコーナー (JR：東戸塚駅)	貸出・返却	平成17年12月～

注 平成17年7月1日現在の予定です。変更となる場合があります。

### (3) インターネット貸出予約の実施

「市長への手紙」等で多くの市民から要望として寄せられていた、インターネットによる貸出予約が、平成17年10月からスタートします。実施後は、図書館ホームページ上の蔵書検索システムや館内利用者用端末での本の検索に続けて、予約ができるようになります。

利用に際しては、事前に、利用登録(図書館カードの発行)とパスワードの登録が必要となりますので、準備ができ次第、実施に先立ち、図書館ホームページと館内利用者用端末で受け付けていきます。

パスワードの登録により、予約申し込みのほか、借用中の本の書名や返却期限の確認、また、予約している本の書名や準備ができているかどうかの確認も、図書館ホームページと館内利用者用端末で確認することができるようになります。

実施後、予約受付冊数は、窓口での予約を含めて合計6冊までとします。

また、平成17年12月からは、本の返却が遅れた場合は、本の貸出や予約申込ができなくなります。

(4) その他

子どもの「読書離れ」の傾向が指摘され、「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年12月施行)が制定されてから、おはなし会などへの関心も高まっています。

市立図書館でも、日ごろから、児童向けに定例でおはなし会などを実施しています。絵本の読み聞かせ、ストーリー・テリング、本の紹介などを行い、本に親しんでもらうとともに、図書館を身近に感じてもらうという企画です。開催日時は図書館ごとに異なりますので、館内のポスターやホームページ等でお知らせしています。

【定例おはなし会】

館名	開催日時	館名	開催日時
中央	毎月第2水曜日 15:30～	緑	毎月第4水曜日 15:00～
鶴見	毎月第2・4水曜日 15:30～	山内	毎月第2金曜日 11:00～(小さい子から)
神奈川	毎月第2・4水曜日 15:30～		毎月第2水曜日 15:30～(3歳以上)
中	毎月第1・3水曜日 15:30～	都筑	毎月第3水曜日 15:00～
南	第2火曜日(2回) 10:30～,11:30～	戸塚	毎月第3水曜日 15:00～
	毎月第2水 15:00～第4水 15:30～ 毎月第2土曜日 11:00～		「ちっちゃなおはなし会」 原則として毎月第1金曜日 11:00～
港南	毎月第1・3金曜日 15:30～	栄	毎月第2水曜日 15:30～
保土ヶ谷	毎月第1・3水曜日 15:00～	泉	毎月第3水曜日 15:00,15:30,16:00～
旭	毎月第2火曜日 16:00～		「親子で楽しむおはなし会」(申込制) 原則として毎月第2木曜日 10:30～,11:00～
磯子	毎月第2水曜日 15:00～(3歳～1年生)	瀬谷	毎月最終水曜日(3歳以上)15:30～
	第4水 15:00～(同上),16:00～(小学生)		「ひよこのおはなし会」(申込制) 原則として毎月第2木曜日 10:30～,11:15～
金沢	毎月第3水曜日 15:30～		
港北	毎月第1・3金曜日 15:00～		

#### 4 - 事業トピックス

##### (1) 自主企画事業

図書館では、市民のさまざまな生涯学習ニーズに応えるため、図書館の持つ資料や施設などの資源を活用して、情報を編集・発信する「自主企画事業」を行っています。

市役所の他の部署や区役所、関連機関との連携に努めているほか、生涯学習グループの事業に資料や情報の提供を行ったり、共同で企画運営するなど、市民との協働についても取り組み、それぞれの地域に根ざした事業を実施しています。

##### 【平成16年度実績】

区 分	具体例	延実施回数	延参加人数
地域情報の発信・提供	講演会、展示会	13回	73人
生涯学習活動の推進・支援	講演会、講習会、セミナーなど	65	1,475
児童・生徒・幼児の読書・学習活動支援	講習会、業務体験、おはなし会、映画会など	642	17,373
地域機関・団体との連携協力	講習会、事業協力、後援など	29	1,740

##### [ 情報検索講座 ]

中央図書館では、平成15年度に引き続き、全4回の「情報検索講座」を実施しました。

要望の多い4つのテーマ(「新聞情報の使い方」「会社情報の調べ方」「医療情報の調べ方」「法律情報の調べ方」)を取り上げ、各テーマの特徴に応じて代表的な図書資料やインターネット・サイトを紹介し、各資料使い分けのポイントなど、情報の探し方のコツを紹介しました。受講者1人に1台パソコンを割り当て、実際に検索実習を行ったことも特徴です。講師は司書がつとめ、日頃のサービスを通じて培った情報検索術を生かしたプログラムを作成しました。

##### [ 展示会 ]

中央・神奈川・都筑・戸塚の各図書館では、文化財課と連携して各区の文化財を紹介する「文化財パネル展」を実施しました。都筑区誕生10周年を迎えた都筑図書館では、地域の風景や航空写真のパネルなども合わせて展示しました。神奈川では「東海道シンポジウム」イベントと連携し、戸塚では埋蔵文化財を展示するなど、館ごとの工夫をこらした展示会となりました。開館20周年を迎えた瀬谷図書館でも、地域の風景のパネル展を開催しました。



また、中央図書館では、展示コーナーを「瀬谷の風景 - 区民が写した昭和の人と暮らし」より活用し、平成16年度も多様な展示会を開催しました。

「生誕 100 年・横浜作家 4 人展」では、同年生まれ（1904 年）の横浜ゆかりの作家 - 北林透馬・平塚武二・大野林火・近藤東 - を取り上げ、関係資料の紹介を行いました。

他にも、山手公園が国の名勝に指定されたことを記念した「山手公園 134 年の記憶」、オリンピックイヤーにちなんだ「アテネオリンピック展」、環境事業局と連携した「ヨコハマは G30 ごみについて考えよう」など、時事的なトピックを盛り込みながら図書館が蓄積してきた資料や地域情報の発信を行いました。

#### 〔生誕 100 年・横浜作家 4 人展〕

横浜は全国でも文学都市の一つと言われ、多くのゆかりの作家と横浜舞台の作品を生み出してきましたが、その中でも分野の違う北林透馬（小説）、平塚武二（児童文学）、大野林火（俳句）、近藤東（詩）の 4 人が同時に生誕百年を迎えた年が平成 16 年でした。

この機会に横浜から各分野で一時代を代表していた作家 4 人を知っていただき、作品に親しんでいただくため、中央図書館で所蔵している資料を中心に、4 人の生涯と作品を紹介し、合わせて関係資料を展示しました。

横浜に終生在住した作家北林透馬は横浜の街と風俗を巧みに描きました。横浜貿易新報に連載した処女作「波斯(ペルシャ)猫」は、文壇アンデパンダンで 2000 余篇の作品の中から選ばれました。この他、出世作となった「街の国際娘」を紹介、ガラスケースでは、詩人時代の作品が載る詩雑誌のほか、戦後の雑誌など、「雑誌にみる北林透馬」を特集しました。

横浜出身では最初の児童文学作家である平塚武二については、代表作の「風と花びら」「ヨコハマのサギ山」などを紹介し、武二の作品が載った小学校国語教科書（横浜市教育センター提供）も展示しました。

全国的な俳人であり俳人協会会長も務めた大野林火は、全句集 11 冊を展示するとともに、「横浜市内吟行」として、林火が各区で作った句と市内にある林火の句碑を紹介しました。

モダニズム詩人として知られた近藤東は、代表作「レエニンの月夜」の時代的変遷を示し、主要著書を展示しました。

また、当館で所蔵する 4 人の原稿・手紙類を解説文とともに展示し、各人の人柄を伝える新聞や雑誌の記事を掲示しました。

会場で配布したチラシは、同年の生まれで出発が同じだった 4 人の違った生涯をあとづけ、各人の著書による年表「出版年代記」を作成しています。

なお、会場に置いた「感想ノート」には、各人への想いが綴られ、好企画との評もいただきました。

## (2) 学校連携事業

従来から市立図書館では、所在区にある学校からの要望に応じて、それぞれに連携事業を進めてきましたが、各学校での利用頻度の差や、個々の図書館の取り組み内容の違いなどから、さまざまな格差が生じていました。

そこで、平成16年度には、いずれの図書館においても提供できる連携事業の内容を取り決め、メニューにした「学校向け来館利用案内」を作成し、市立の小学校、中学校、盲・ろう・養護学校に配付、周知して、できるだけ均質なサービス提供ができるよう努めました。

さらに、平成17年度からは、学校図書館の補完的役割として、市立学校の教職員自身の調査研究や、授業の場で児童・生徒に関連図書を紹介する際などに有効な「教職員向け図書貸出」を制度化し、実施します。

### 【平成16年度実績】

実施内容	延実施回数	延利用人数
図書館見学	154回	6,733人
読み聞かせ等の本の紹介	64	6,321
調べ学習	42	1,430
体験学習	63	265
教職員向け講習	26	567
P T A 向け講習 等	45	511
合計	394	15,827

学校連携事業は、市内の国公立・私立の小・中学校および高等学校の活動に協力しており、連携事業の実績数は年々増加する傾向にあります。

平成16年度、中央図書館では小学校との連携事業として、図書館見学の受入れやおはなし会の実施、学校への図書資料の貸出を行いました。さらに、一年間継続してクラブ活動を支援する事業も実施しました。

中学校、高等学校との連携事業としては、図書館見学、調べ学習、職業体験の受入れ等を行いました。特に職業体験の受入れはここ最近増えています。

中央図書館では、今後も児童・生徒の様々な活動を積極的に支援していきたいと考えています。

## (3) 読み聞かせ等ボランティア養成講座

平成15年度に、図書館では、子どもの読書に係わる市民および学校や地域施設などにおける活動実態や要望を把握することを目的に、『読書ボランティア調査事業』を実施しました。この調査の中で要望の高かった事項のひとつに「ボランティアに対する研修」がありました。

この調査結果をふまえ、平成16年度から「おはなしボランティア講座」をスタートし

ました。これまで各図書館で独自に実施してきた読み聞かせやストーリー・テリング（おはなしを覚えて語ること）等の講座を、市立図書館全体の講座として調整し、市内各地域で様々な講座を開催し、参加者のレベルに合わせて受講できるようにしました。これは、市立図書館初の試みです。

東京子ども図書館理事 荒井督子氏による記念講演会を皮切りに、読み聞かせ、ストーリー・テリング、わらべうた、手遊びなどの講座を開催しました。一部の講座では、司書も講師をつとめ、プログラムの組み方、おはなし会の具体的な進め方など実践に即した内容の講義を行いました。また、受講者にも絵本の読み聞かせやストーリー・テリングの実習に取り組んでいただきました。

講座には、多くの方から申込みをいただき、子どもの読書に向けられた関心の高さボランティアとして活動するために必要な情報や知識への需要の大きさがうかがわれました。

受講者アンケートでは、実習を取り入れたこと、紹介された資料をその場で借りて帰ることができた点などが評価され、今後も実施してほしいという声を多数いただきました。

「おはなしボランティア講座」は、平成17年度以降も市内の各図書館を順次会場にして継続して実施していきます。

#### (4) 庁内情報拠点化事業

庁内情報拠点化事業は、市役所内部での図書館への認識を高め、図書館サービスの充実につなげること、市役所が行う市民サービスを支援することにより、図書館サービスの拡大を図ることなどを目的として、平成11年度からスタートした事業です。

具体的には、各局区の日常業務や新たな事業の企画立案等のために必要とする情報への、レファレンスや資料提供などを行っています。

また、総務局人事部人材開発課と連携して係長昇任予定者向けブックリストを、環境事業局(平成17年度からは資源循環局)への協力事業として環境問題に関する映像資料リストの作成を行いました。

#### 【実績】

区 分	業務用資料貸出(冊)		レファレンス受付(件)		ブックリスト作成等(件)	
	対象局区数	利用実績	対象局区数	利用実績	対象局区数	利用実績
平成11年度	34	660冊	35	297件	4	4件
平成12年度	39	878冊	39	336件	2	2件
平成13年度	34	1,345冊	34	277件	-	-
平成14年度	39	1,211冊	38	334件	2	2件
平成15年度	38	1,242冊	38	287件	2	2件
平成16年度	38	1,299冊	38	255件	2	2件

#### (5) ホームページ

図書館ホームページへのアクセス件数は年々増え続け、開設時の約10倍になっていま

す。平成16年度には、《都市横浜の記憶》と題して、図書館所蔵の横浜の歴史と文化に関する資料をデジタル化して、ホームページに公開しました。また、中央図書館所蔵の新聞・雑誌、マイクロ資料の一覧などを公開しています。さらに、5月からはE-mailによるレファレンスの受付も開始しました。図書館ホームページは、これからも、使い易さと横浜ならではの内容の充実を図ります。

また、横浜市ホームページにならい、図書館ホームページでもバナー広告の募集をしました。バナー広告による収益金は図書館資料の購入費として、計上されます。

【図書館HPアクセス件数】

(回)

	平成9年度 (3月開設)	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
お知らせ、 ほか	9,267	216,112	375,855	493,162	566,514	672,959	1,399,468	1,866,081
蔵書検索	10,714	258,809	459,146	653,586	839,020	1,325,046	2,070,616	2,582,889

<参考>

市全体 313,689 7,008,882 17,920,862 32,558,292 43,146,683 69,493,720 105,455,179 128,884,948

(6) その他

図書館の存在は知っていても、身近に感じているとは言い難い市民が多い中で、図書館の利便性を高めつつ、もっと積極的に広報していかなければという思いがあります。昨年度は、横浜市広報ラジオ番組に職員が出演したり、インターネットでの情報検索についてTVKの取材を受け、図書館の存在をPRしました。図書館の刊行物やホームページ、その他、取材等にも積極的に応じて、図書館の活用を呼びかけていきます。

【共通刊行物】

名 称	発行回数	判 型	頁 数
横浜市立図書館報 横浜	2	A4	12
横浜市の図書館 2004 (横浜市図書館概要)	1	A4	24
としょかんはたのしいよ(一年生向け利用促進リーフレット)	1	A5	4折
今月の行事とお知らせ (市立図書館全館で配付)	12	A4	1
このなつおすすめの本 1・2年	1	A4	4
” 3・4年	1	”	”
” 5・6年	1	”	”
” 中学生以上	1	”	”
はまかぜだより	10	A4	4
はまかぜ号のくる日	1	A5	1